

進路だより

進路指導部

1 進路決定状況

3年生の就職・進学試験は終盤に入りました。就職試験は、試験開始日がコロナ禍のため例年より1か月延期され、10月16日から始まりました。就職試験が始まり1か月がたちました。雇用環境は慢性的な労働力不足ではありますが、新型コロナウイルス感染拡大による経済の低迷により、業績が悪化した企業が多く、そのため、求人を絞った企業が見受けられました。11月16日現在、本校の就職内定率は82.1%です。(参考 10月末現在：県内高校内定率70.4%・本校67.9%)

進学については、専門学校の入試がほぼ終わり、短期大学や4年制大学の入試が実施されています。3年生は、もう一息です。学年全員が進路決定するまで頑張りましょう。

2 内定・合格体験記①

今号から、内定・合格体験記を掲載していきます。就職試験の内容は、一般的に『筆記(一般常識)』・『適性検査』・『面接』・『作文』などの試験が行われます。最近では、『筆記(一般常識)』と『適性検査』の両方の評価を見ることができる適性検査『SPI』を取り入れる企業が増えてきました。また、適性検査の中でも、『クレペリン検査』を行う企業もあります。この2つの検査は、2・3年生時に対策を行います。『SPI』は3年生の1学期に朝自習として全員取り組み、『クレペリン検査』は2年生の3学期に行います。面接や作文の指導も受験先決定後から練習していきます。特に、就職試験では、面接での評価が大きく、そのため対策が重要となります。なお、今年度の就職試験は、コロナ感染対策で、面接が集団面接から個人面接に変更されたり、時間を分けて試験が実施されたり、例年どおりの就職試験ではない企業もみられました。

1・2年生は、これから、自分の進路について考える機会が増えてきます。3年生が進路実現に向けて取り組んできたこと、心掛けてきたことを参考に、学校生活を送ってください。

【伊万里信用金庫(金融事務職) 岩木 日花利(有田中出身)】

私が伊万里信用金庫を志望した理由は、商業高校で学んだ簿記の知識を将来の仕事に生かしたいと思ったことと、伊万里信用金庫が、地域の行事などに積極的に参加されるなど、地元伊万里の活性化に貢献されていることを知って、ぜひ働きたいと思ったからです。



受験までに意識して取り組んだことは、面接対策です。伊万里信用金庫の面接は、質問項目が多く、その内容が多様であるため、面接練習だけでなく、友人や家族との会話の中での些細な質問もすぐに答えるように意識しました。

受験時は緊張しましたが、面接だけでなく作文も対策を十分にしていたため、思うようにできました。筆記試験では、暗算の問題があったため、もう少し対策をしておけばよかったと思いました。友人や家族、先生方の支えで合格することができました。ありがとうございました。

【株式会社JAフーズさが(一般事務職) 田中 七実(国見中出身)】

私が株式会社JAフーズさを志望した理由は、食品関係の仕事に興味があり、生まれ育った地元で働きたいと思ったからです。株式会社JAフーズさは、仕事のやりがいでだけでなく、福利厚生がしっかりしており、従業員の方も女性の方が多く、女性が働きやすい職場であることも魅力でした。



受験までに取り組んだことは、朝自習でのSPI対策です。自分が解けなかった問題はもう一回解くなどして復習をしました。面接対策は、卒業した先輩方の受験報告書を見てどんな質問がされていたかを確認したり、よく質問される項目を調べたりして自分の考えをノートにまとめました。

受験に行く前はとても緊張していましたが、いざ試験が始まると集中して解くことができました。面接でも、面接室に入ったすぐはどんなことを質問されるのか緊張して不安でしたが、落ち着いて答えることができました。また、面接官の方がしっかりと目を見て話を聞いていただき、ときには笑ってくださったので、笑顔で質問に答えることができました。

【株式会社SUMCO(技能職) 土井愛実(国見中出身)】

私は、元々、地元での就職を考えており、株式会社SUMCOは、製造されているシリコンウェハーが世界中の電子部品を支えており、世界に貢献しているところにとってもやりがいを感じました。そして、女性も働きやすい職場環境や地域貢献、世界に通用する製品づくりに携わりたいと思い志望しました。



私が特に取り組んだことは、作文と面接です。作文は、学校行事や部活動での出来事を、株式会社SUMCOが望む人材と照らし合わせて、自分をアピールできるよう構成して書く練習をしました。面接では、ハキハキと笑顔で、相手の目を見て話すことを心掛けました。また、明るく元気で健康的な人、コミュニケーションがとれる人に好印象を持たれるため、笑顔で質問にしっかりと答えることができるように何度も面接練習をしました。また、面接練習後に、練習をしていただいた先生方がアドバイスを面接ノートにしっかりと書きとめました。

受験時は、特に面接が緊張しました。しかし、面接官の方は優しく質問されるので、落ち着いて返答することができたと思います。最後に、企業のパンフレットは隅々まで目を通しておいてよかったと思いました。

【税理士法人武雄中央会計事務所（税理事務職） 森 はるな（西有田中出身）】

私は、2年生の終わり頃から、日商簿記2級の勉強を始めたのですが、勉強をしていく中で、馬場先生から税理士の道を勧められ、志すようになりました。働きながら税理士になるために、会計事務所からの求人を探していたところ、武雄中央会計事務所が目にとまり、実務経験ができ、就業時間後もしっかりと勉強する時間がとれることから考え志望しました。

受験するにあたって、応募前職場見学に参加しましたが、このとき、しっかりと準備ができていなかったため、質問などができませんでした。あとから、これが不安材料になってしまったので、準備の大切さを改めて感じました。また、面接練習は特に頑張りました。先生方のアドバイスを自分なりに解釈し、面接での緊張に慣れるよう意識しながら練習に取り組みました。

受験時は、練習のおかげで、適度な緊張感で練習どおりに受け答えをすることができました。どのような雰囲気の中でどんな質問をされるのか、本当にここで大丈夫なのかをいう不安もありましたが、和やかな雰囲気笑顔での面接だったので、面接練習をしっかりと取り組んでよかったと思いました。今では、将来の目標に向かって日々成長できるように励みたいと思っています。

【日本郵便株式会社（郵便局員） 坂取彩乃（啓成中出身）】

私は、ホテルマンになりたいと考えていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、経済社会が不景気に陥り、不安定になると思い、それならば、商業高校で学んだ簿記や電卓などのスキルを活かした仕事がしたいと思い、金融関係の職業に就きたいと考えました。また、人と関わることが好きな私は、地域の方などを関わることができ、『金融』に加えて『郵便』『保険』の3つの幅広い業務にやりがいを感じ、ぜひ日本郵便株式会社で働きたいと考え志望しました。



就職試験までに一番頑張ったことは、面接練習です。面接練習では、全く答えを準備していない質問に答えることが難しかったです。動揺しないように気を付けても、目を逸らしそうになります。そこで、面接官を友達だと思って面接を受けることを意識しました。すると、緊張感が和らぎ、すらすらと答えることができ、面接に自信がつかしました。

受験では、面接練習のおかげで、ほとんど緊張することもなく、面接の終わりには、「ユーモアもあり、誠実でいい。」とほめていただきました。その時は、面接練習をしていただいた先生方と応援してくれた友達のおかげだと思い、感謝の気持ちでいっぱいでした。

入社後は、多くのお客様から愛していただけるような局員になれるよう、日々成長していきたいと思っています。

【マツダ株式会社（生産技能職） 池田 遥陽（南波多中出身）】

私は、商業高校で学んだマーケティングなどの知識を活かして、消費者が求める車をつくりたいと思いマツダ株式会社を志望しました。多くの自動車メーカーがある中、マツダ株式会社を志望したのは、自動車製造を通して、独自の環境への対応をされているところに関心を持ったからです。



受験までに特に力を入れて取り組んだことは面接です。受験報告書から、例年、同じような内容の質問をされていることがわかり、それらの質問に対して、しっかりと自分の言葉で伝えることができるように何度も練習をしました。

受験本番では、例年とは全く違う質問をされ、正直焦りましたが、自分自身をしっかりとアピールしようと思い、素直にはきはきと元気よく答えました。

就職試験を受けて感じたことは、自信をもって試験に臨めるように、準備することが大切だということです。また、準備が十分であれば、イレギュラーなことがあっても落ち着いて対応でき、自信があれば自分自身の良さをしっかりと伝えることができると思いました。

3 行事予定（進路関係）

12月 3日（木）進路報告会（HR活動：1・2年）
15日（火）県内企業合同説明会（2年）
17日（木）作文指導（1年）